

## 柿やビワのおせわになり

原山勝喜(畑ヶ川)

私の入学は昭和二十六年です。校庭の桜が満開で花びらが風に舞う頃だった。道路に沿った石垣、記念写真の石段にも花びらが残っている。小学一年生として初めての学校生活、心ほそそいな私の顔、でも校庭の桜の美しさは忘れられない。小さい頃病弱だった私は学校を休むことがあった。腎臓を患い塩分を取られなかったこと、熱を出して自分で歩けないので医者からの帰り道背負われて帰った記憶がある。そんな私だから校庭の柳と雨、そして「雨々ふれふれ母さんが じゃのめでお迎えうれしいな」の歌が柳のしなやかさとイメージが重なる様で、強く心に残っている。学校まで四キロメートルの道程、春は菜の花が田畑に咲き、青空の下学校からの帰りが、暖かさと共に思い出される。

校舎は木造二階建てで中央に玄関があり、児童の出入口は玄関より右側に一箇所、左側に二箇所あった。玄関は教室の並びより前に突き出る形を取っており、二階の教室から窓を越せば

玄関の屋根になっていた。玄関脇には二宮金次郎の銅像、そして小鳥小屋と花壇があった。裏庭の東側に水道タンクと長谷村の形をした池があり、池の中央に石があり学校の位置を示す標識となっていた。子供の頃は衣類、食べ物共に少なく、靴も底が堅く、上は厚い布製の物だったり、家では木綿の着物だった。

学校で昼食の時、脱脂粉乳を飲んでいた。祭りの時などに飴玉を買って貰うか、夏休み中キヤンデー売りが来た時せがんだのを覚えていた。そんな事情なので、柿、梅、びわ、ゆず、ぐみ、畑の甘藷、じゃがいも、さとがら、ぎっしんとうなんでも食べたものだ。校庭西方向には木造の農協事務所と倉庫が並び、木炭が動力の自動車や、丸ハンドルでなく棒ハンドルの三輪車が、長谷村を通る数少い自動車だった。現在の校舎の位置に役場があり、子供ながらも玄関は古風な作りで玄関前の石柱の垣根が強く印象に残っている。在学中講堂の新築が行われ、

校庭に材木が多く積まれた事を覚えている。

遠足では三ノ岳によく登った。山頂からは大分の海も見え景色がすばらしかった。子供の足では三ノ岳までの登りは苦勞もあつたが、登りついて山頂からの、道路や自分の部落を眺めるすばらしさは、いつまでも忘れられない。私達同級生五十九名は新築された講堂入口の石段で渡辺庸以先生を囲み記念写真を撮っている。そして今年目毎に「三ノ岳会」の名のもと同級会を開いている。昭和五十六年からは恩師をお招きし、つもる話に花を咲かせている。今後も長谷小学校卒業生として話はずむものと思えます。

このたび長谷小学校の為御尽力戴く方々のお陰により体育館が新築なり、開校百周年を迎える事を大変うれしく思っています。これからも伝統と歴史のある長谷小学校になるよう協力いたします。